

## 日本応用地質学会東北支部 平成 24 年度現地研修会 参加報告

日時 10月12日(金)～13日(土)

参加人数 18名

工程 10/12 6:40 仙台駅発⇒10:00 盛岡駅  
発⇒13:30 平井賀漁港(宮古層群露  
頭、津波の痕跡)⇒14:20 ハイペ海  
岸(宮古層群の不整合露頭、3.11 津  
波石)⇒15:00 サップ船による海岸  
露頭観察⇒16:00 羅賀港(明治津波  
石)⇒17:15 宿(グリーンピア宮古)  
10/13 9:00 田老観光ホテル・防潮堤  
見学⇒11:00 水産科学館⇒11:30 浄  
土ヶ浜⇒16:00 盛岡着⇒19:00 仙台  
着

概要 東北地方太平洋沖地震で被害の大き  
かった北部北上地域の海岸露頭(下  
部白亜系上部の宮古層群)の地質層  
序現地研修会に参加し、岩手県立博  
物館、大石学芸部長の説明を受けた。  
また、津波の被害を受け損壊した田  
老観光ホテルの見学をし、宮古市観  
光協会の方の説明を受けた。

詳細

### (1) 平井賀漁港

平井賀漁港北岸では、下位から角礫岩  
主体の羅賀層、砂岩層中に円礫層を狭在  
する田野畑層、砂岩主体の平井賀層が堆  
積し、各層は海側に向けて緩く傾斜する  
(下部白亜系上部宮古層群)(写真 1)。  
田野畑層中にはサンゴ化石、過去の津波  
堆積物層が散見された。



写真1：海側に傾斜する田野畑層

### (2) ハイペ海岸

平井賀漁港と同様に、宮古層群を形成す  
る羅賀層、田野畑層、平井賀層が海側に傾  
斜する。宮古層群より下位に、ジュラ紀付  
加体堆積物層との不整合を確認した(写真  
2)。この不整合は、北上山地が陸地になっ  
た大島造山運動時のものであるとされてい  
る。



写真2：大島造山運動時の不整合露頭

ハイペ海岸には3月11日の大津波時にい  
くつかの津波石があがった。また、3.11以  
前からあった巨石が今回の津波により山側  
へ大移動したとの説明があった(写真 3)。



写真3 : 3.11 津波によって大移動した巨石。写真左下方向が上位、右上方向が下位。



写真5 : 明治三陸地震時の津波石

### (3) サッパ船による海岸露頭観察

サッパ船に乗船し、平井賀層、明戸層の海岸露頭を観察した(写真4)。



写真4 : サッパ船からの海岸露頭観察

### (4) 羅賀港

明治三陸津波時に打ち上げられたとされる津波石を確認した(写真5)。津波石中にはオルビトリナという有孔虫化石が含まれており(写真6)、この化石を含む元の地層は400m北東方向に露出していることから、津波によって運ばれきたとされている。



写真6 : 津波石中にはオルビトリナが含まれる

### (5) たろう観光ホテル・防潮堤

たろう観光ホテルの6階から撮影された3.11時の津波の映像を見ながら、ホテルの社長と宮古市観光協会田老ガイドのお二方から説明を受けた。地震時にははじめ、3mの津波が来るとの放送が流れ、避難しなかった人、避難したがすぐには津波が来なかったのが家に戻ってしまった人がいたことが紹介された。津波の調査をしていくと、港からは離れた山沿いに津波に関する石碑があることが発見された。石碑には、大地震の後には津波が来ること、地震の際は高所で一時間我慢する、等の教訓が記されていたが、またしても同じ被害を繰り返して

しまったことが明らかになった。そのため、今回津波の被害を受けた海側の地域には今後家を作らず、漁業関係の建物のみ作るようになった。また、今回の津波で3階まで無くなってしまった、たろう観光ホテル(写真7,8)は津波遺産として保存する考えであるという話であった。



写真7,8：津波により被災したたろう観光ホテル

### (6) 浄土ヶ浜

5200 万年前に上昇してきたマグマが周辺地盤を押し上げ、ラコリスと呼ばれる貫入岩体を形成した。貫入した流紋岩が浸食を受け、浄土ヶ浜のようなとがった岩山、流紋岩の白い石の浜辺を作った(写真9)。浄土ヶ浜は極楽浄土のごとく美しい景観をなしていることから名づけられたといわれている。



写真9：浄土ヶ浜

### (7) 所感

地震後初めて津波の被災地に行った。一年半余りが経過し、徐々に元の生活を取り戻しつつある一方でがれきが山積している箇所もあった。ガイドの方は家族を亡くし、家が流されても、その忌まわしい記憶の残るホテルを被災遺産として後世に残したいという。過去の教訓を忘れず、未来の命・財産を守るために現物が残る意義は大きいと感じる。いわて三陸地域の個性的な地質遺産に加え、今回の震災を風化させないための「いわて三陸ジオパーク構想」が実現され、将来の防災・減災につながる事を期待したい。

最後にお忙しい中、当日説明していただきました岩手県立博物館大石学芸部長、宮古市観光協会の皆様、幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。

以上

(文責：坂東雄一)



写真10：集合写真～津波石の前にて